

現役生の声 ①

2023年度ゼミ7期 ゼミ長 足立篤彦さん(JG)

研究テーマ「ブラックミュージックから考える黒人差別と自由」

鶴田ゼミでは、それぞれのメンバーが自分の関心のある事柄について研究を行います。ただ研究を行うのではなく、ゼミメンバーそれぞれが「情報消費者」ではなく「情報生産者」になることを目標とし、主体的に情報を発信することを大切にしています。ゼミ全体でそれぞれのテーマを共有するので、より分かりやすく、意味のある情報を生み出すために必要なこととは何なのかを全員で考えながら情報生産者になることができます。ゼミの活動もイベントも何事にも全力で取り組むゼミなので、充実した、実りの多い時間を過ごせること間違いないと思います。「どうしてもこの事柄について研究したい！」というテーマがある人、「自分の手で情報を生み出してみたい！」という人は是非！！鶴田ゼミがおすすすめです。

2023年度ゼミ7期 副ゼミ長 高橋 葵さん(JP)

研究テーマ「なぜ人々は商品を後ろから取りたがるのか」

鶴田ゼミは自分のやりたいことや知りたいことがある人にぴったりなゼミです。「国際法ゼミ」というゼミ名ですが、ゼミ生はそれぞれ自分の興味関心のある分野を自由に研究し、論文を作っています。政治や文化、環境問題などさまざまな分野に興味のある学生が集まるゼミなので、今まで知らなかった世界に触れることもできます。ゼミ生それぞれが異なる研究を行っているからこそ、毎回のゼミで新しい発見があり、とても刺激的です。これからの大学生活で新しいことを始めてみたい人、何かを突き詰めたい人にとってもおすすすめです。

2022年度ゼミ6期・2023年度卒論 古箭 要さん(JG)

研究テーマ「香港国家安全維持法の正当性と問題点から見る香港の在り方」

自身の興味関心を突き詰めたい人にとって鶴田ゼミは最高の環境と言えます。十人十色の研究テーマがあり、それらを尊重し、率直な意見を交わすことができる環境が整っています。ただ興味のある分野について調べて終わりではなく、その学びを如何にして伝えるかという点に踏み込んだ論文を目指します。ゼミ対抗スポーツ大会や懸賞論文でもこのような高みを目指すDNAが鶴田ゼミには根付いています。期末レポート・プレゼン程度では言いたいことが収まらないという経験がある人、大学で学んだことに胸を張りたい人、刺激が足りない人、鶴田先生が大好きという人は是非。

2022年度ゼミ6期・2023年度卒論 清水里穂さん(JG)

研究テーマ「SNSとの上手い付き合い方」

鶴田ゼミは自分の関心のある事柄を研究し、とことん追求することができる場所です。自分の関心のある事柄に関して問いを立て、研究し、答えを出し、それを論文という一つの作品にまとめます。さらに、それで終りではなく、自分が得た情報をひろく発信していきます。私たちが作成するのは「レポート」ではなく「論文」です。私はまだ作成途中ですが、文章を作成することの難しさ・人に伝えることの難しさなどを実感しています。大学という学びの場所で、このプロセスを学ぶことができる場所はなかなか無いと思います。この学びは、自分に対して大きな自信を与え、大きな成長に繋がると信じています。是非、皆さんも鶴田ゼミで大学生活を充実させてみませんか？

卒業生の声①

2017年度ゼミ1期 齋藤 優輔さん(JU)(米国ワシントン大学シアトル校国際関係学部卒業)

鶴田ゼミの大きな特徴として、読解力・文章力・論理的思考力が身につく、また、国際的な視点に立ち、世界的な問題に対する理解を深めることができるという2点が挙げられると思います。まず、ゼミ開始当初は、自分の読解力や文章力をしっかりと鍛えることから始まります。課題図書で指定された範囲を読み、自分の言葉で簡潔にまとめるといったことを反復して行いました。大量の文献を読み込み、それを自分の言葉にするというのはとても大変でしたが、鶴田先生の丁寧な指導と添削のおかげで、文章を読み、書く力がとても鍛えられたと思います。また、その後は国際的な課題に関する疑問を自ら設定し、それについての論文を書いています。国内に限らず海外の書物なども引用するため、グローバルな視点で自分のテーマを研究し、国際問題に関して理解を深めていくこととなります。グローバルな課題に関心があり、国際的な視点に立って勉強をしてみたいという人にはとてもおすすめのゼミです。

鶴田追記:齋藤さんは本学の2017年度第40回学生懸賞論文(テーマは難民問題)で奨励賞を受賞しました。

2018年度ゼミ2期・2019年度卒論 齋藤 梓さん(JC)(広告代理店勤務)

国際法の観点から、自分の社会問題への関心を研究へと昇華できるゼミです。先生は広い準備で、各学生の多様な興味・関心と国際法を繋げてくださり、研究テーマの問いを立てることすら苦戦していた私も、主体的に自分のペースで研究に向き合い続けられました。一方、ゼミ生同士で毎週お互いの論文についてコメントし合う必要があります。社会問題への視野は広く持たなければなりません。その点で、調べて得ただけの情報を伝えることと、情報を生産することの違いを身を持って持って学んでいきます。社会人になった今の視野や意見の表現力はゼミと卒論で養った私の財産です。ぜひゼミ論文は先生のもとで卒業論文に仕上げることをお勧めします。

鶴田追記:齋藤さんは北極海航路をテーマにした卒論で2019年度卒業論文優秀賞を受賞しました。

2019年度ゼミ3期・2020年度卒論 三村 夏鈴さん(JU)

研究テーマ「芸術によって政治の意識を高められるか」

3年次のゼミでは問いを立て、問いに対する自分なりの答えを出す練習をし、短い論文を書きます。4年次は、前年の経験をもとに大学生活の集大成として、卒業論文を完成させました。ゼミは先生から教わる時間より、メンバーがお互いの論文を読み、改善点を出し合う時間を中心に進められます。メンバー同士が切磋琢磨して勉強し、知的好奇心が高められる点がこのゼミの特徴です。これをしなければいけないという決まったことはなく、自分がいま気になっていることについて考え、テーマに落とし込み、研究することができると思います。

2019年度ゼミ3期・2020年度卒論 笹井 修太郎さん(JU)

研究テーマ「希少野生動物の組織的な密輸入の現状と対策」

鶴田ゼミでは、レポートではなく、論文を執筆します。自らの関心に即した問いを立て、調査し、まとめる。問いも結論も人それぞれ。自分だけが産み出せるオリジナルな情報、それが論文です。このゼミでは、ゼミ生がお互いにコメントし合いながら、論文の質を高めていきます。そして、論文にとって何より重要なのは「伝わる」こと。「伝わらない」報告には、「難しい」とコメントが付き、対話になりません。そのため、ゼミでは研究成果を発信する力も鍛えられます。一見ハードですが、研究したくて集まった仲間に、先生のお人柄も手伝って、いい雰囲気の研究を進められます。私も、問いを立てたり、「伝わる」論文の執筆に苦心しましたが、最優秀卒業論文賞をいただいたことで、2年間の研究の過程が力になっていることを強く実感しました。研究したいことがある方は鶴田ゼミであなただけの問いに挑戦してください。

鶴田追記: 笹井さんはワシントン条約をテーマにした卒論で2020年度卒業論文最優秀賞を受賞しました。

2020年度ゼミ4期・2021年度卒論 鎌田千景さん(JG)(メーカー勤務)

私達のゼミは、それぞれが異なる分野でのテーマ設定をして研究していたため、自分の関心以外の知識も得ることができました。鶴田先生もゼミ生の自主性を尊重し温かく見守り、行き詰まった際にはヒントを与えてくださるので、自分のペースでしっかりとテーマと向き合うことができます。ゼミ論文を上手に仕上げることも勿論大事ですが、世の中の様々な事象に目を向け気付きを得るというプロセスそのものを経験するだけでも自分の成長に繋がるとゼミを通して実感しました。情報を発信する側になるというのは決して容易なことではありませんが、充実した日々を送れること間違いなしです。是非皆さんも挑戦してみてください。

鶴田追記: 鎌田さんは動物愛護法をテーマにした卒論で2021年度卒業論文優秀賞を受賞しました。

2020年度ゼミ4期 行田海斗さん(JG)(不動産デベロッパー)

研究テーマ「時代の潮流に合わせた新たな知財戦略への転換の必要性」

現代社会における共生を考えるためには、私たちが普段疑うことのない「常識」にひそむ矛盾や思いこみに気づき、それらを打ち破っていく必要があります。鶴田先生のゼミでは、毎日消費する何気ない情報にこだわりや疑問を持つセンスを養うことができると考えています。あなたの「小さな気づき」が社会を変える「大きな気づき」の一歩となります。「価値のある情報を発信する側に回り、今、ここにはないものを創造すること」を、学生のうちに経験することは、一生の財産になり得ます。ぜひ挑戦してみてください。

鶴田追記: 行田さんは2021年度第32回ヤンマー学生懸賞論文で優秀賞を受賞しました。論文のテーマは日本農業の知的財産権保護と国際戦略。

法学部3年演習「国際法研究」・法学部4年卒業論文 卒業生の声④

2021年度ゼミ5期・2022年度卒論 亀井のいさん(JP)(大学院進学) 研究テーマ「中国の発展による世界への影響」

鶴田ゼミは良くも悪くも自由です。自分の設定した問いに対して、答えを提示されることはありません。しかし、自身の関心のあるテーマについて、オリジナルな問いを設定し、オリジナルなアプローチで考察を進めることは、このゼミならではの非常に楽しい経験です。しかし、論文執筆において、自分の世界観だけでは読み手に響く文章は書けません。他のメンバーからの指摘やアドバイスを受けとめて、それを取り込んでいくというプロセスが、このゼミにおける最も肝心な作業であると感じます。情報を発信する側となるのは簡単ではありませんが、この経験は必ず大学時代の大きな学びになると信じています。鶴田ゼミ生として共に頑張りましょう。

鶴田追記: 亀井さんは3年次に2021年度白金法学会論文賞で優秀論文賞を受賞しました。論文のテーマは中国のコロナ対策と次世代技術。また、卒業時には2022年度卒業論文優秀賞を受賞しました。論文のタイトルは「中国人留学生の増加が日本の人材育成に与える課題」。